大型版 あらしのよるに シリーズ ❶

あらしのよるに

きむらゆういち◎作
あべ弘士◎絵

あらしのよるに

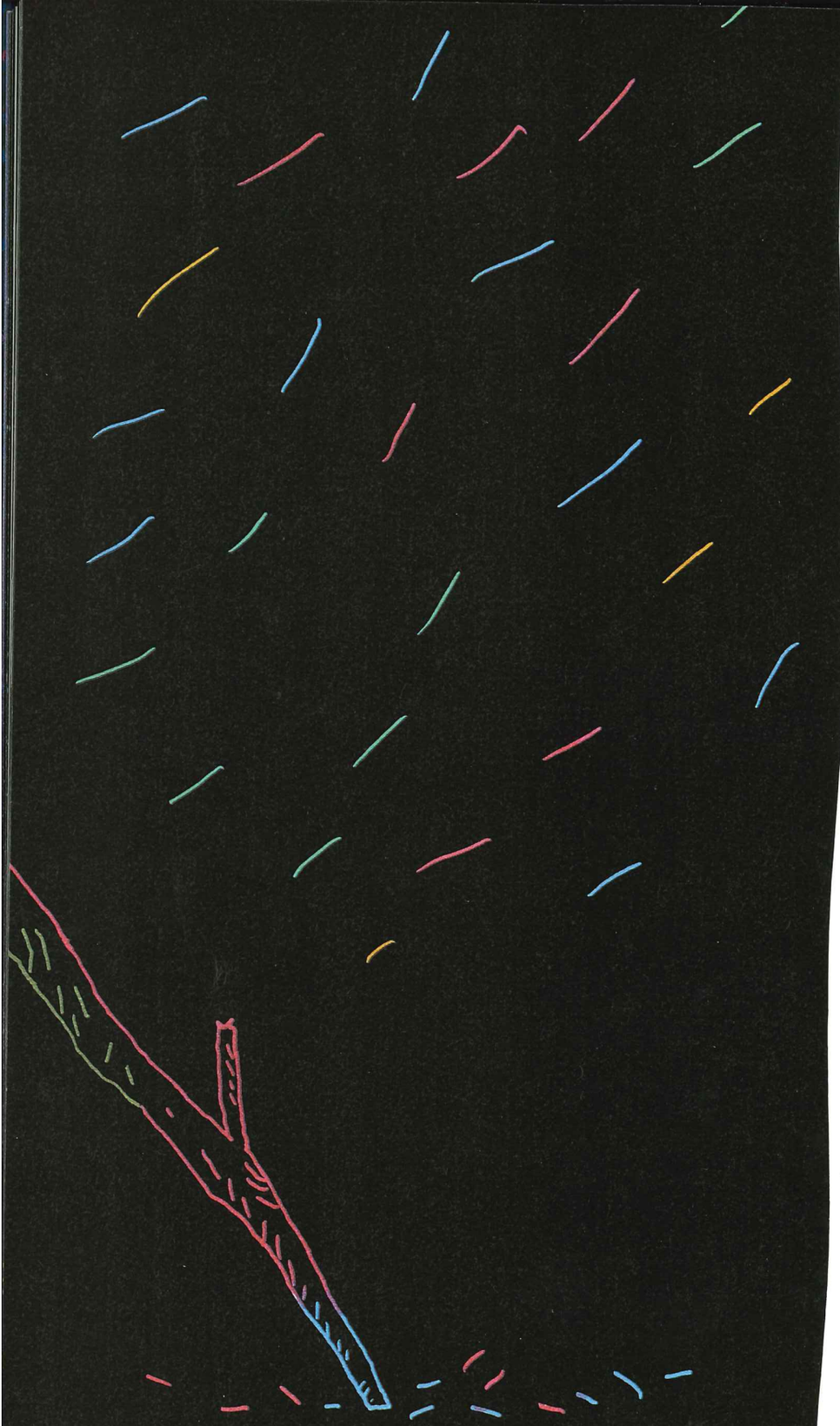
きむらゆういち◎作
あべ弘士◎絵

講談社

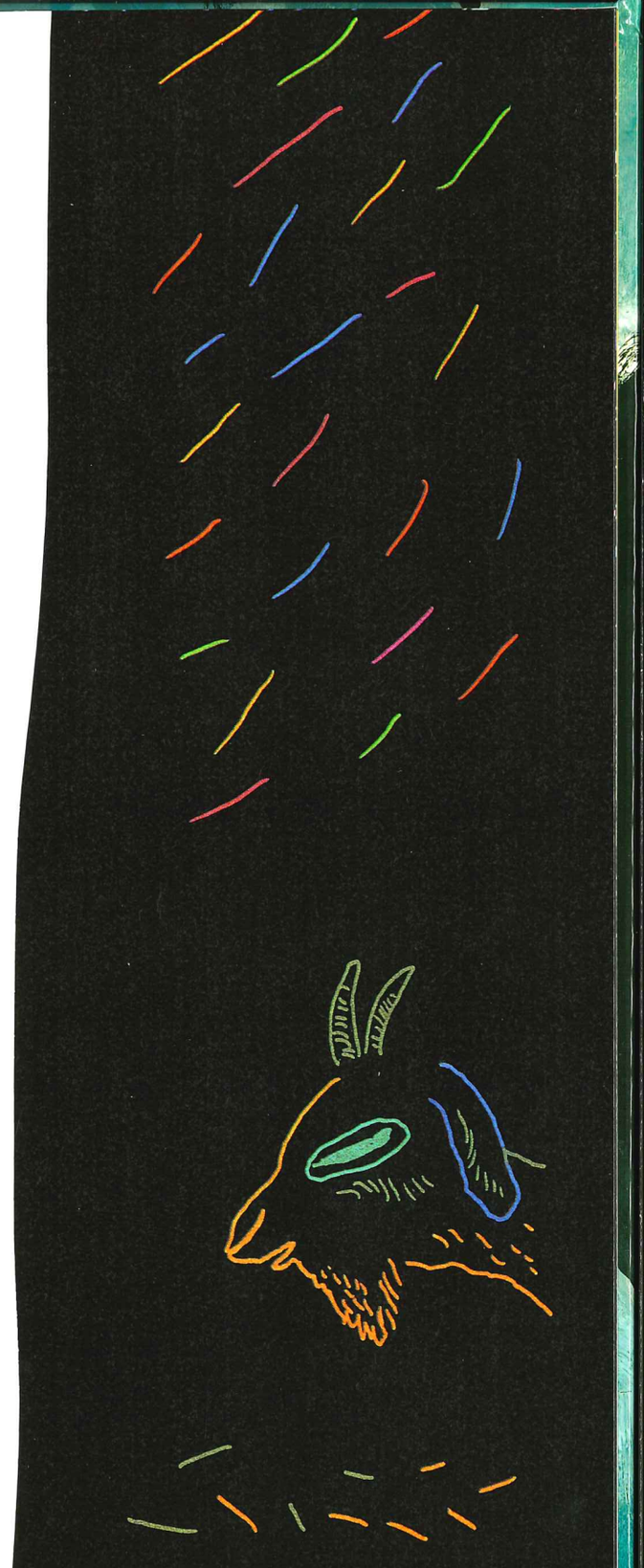
ごうごうと
たたきつけてきた。
それは『あめ』と
いうより、おそいかかる
みずの つぶたちだ。
あれくるった よるの
あらしは、その つぶたちを、
ちっぽけな ヤギの からだに、
みぎから ひだりから、
ちからまかせに ぶつけてくる。

しろい ヤギは、やっとの おもいで
おかを すべりおり、こわれかけた
ちいさな こやに もぐりこんだ。

くらやみの　なかで、ヤギは　からだを　やすめ、
じっと、あらしの　やむのを　まつ。
ガタン！
だれかが　こやの　なかに　はいってくる。
ハアハアという　いきづかい。
なにものだろう？
ヤギは　じっと　みを　ひそめ、みみを　そばだてた。



コツン　ズズ、コツン　ズズー。
いっぽ　いっぽ、かたい　ものが　ゆかを　たたいて　やってくる。
ひづめの　おとだ。
なあんだ、それなら　ヤギに　ちがいない。
ヤギは　ほっとして、そいつに　こえを　かけた。
「すごい　あらしですね。」



「え？　おや、こいつは　ひつれい、ハア　ハア、しやした。
まっくらで、ちっとも、ハア　ハア、きが　つきやせんで。」
あいては　ちょっと　おどろいて、あらい　いきで　こたえる。
「わたしも、いま　とびこんできたところですよ。
しかし、こんなに　ひどく　なるとはね。」
「まったく。……おかげで　あしは　くじくし、おいらは
もう　さんざんですよ。ふう〜。」

あいては、やっと　おおきく　ためいきを　つき、
つえに　していた　ぼうきれを　ゆかに　おく。
と　いうことは……。

そう、その つえを ついて やってきた くろい かげは、
ヤギでは なく、オオカミだったのだ。とくに、この オオカミ、
するどい きばを もち、ヤギの にくが だいこうぶつと きている。
「あなたが きてくれて、ほっとしましたよ。」

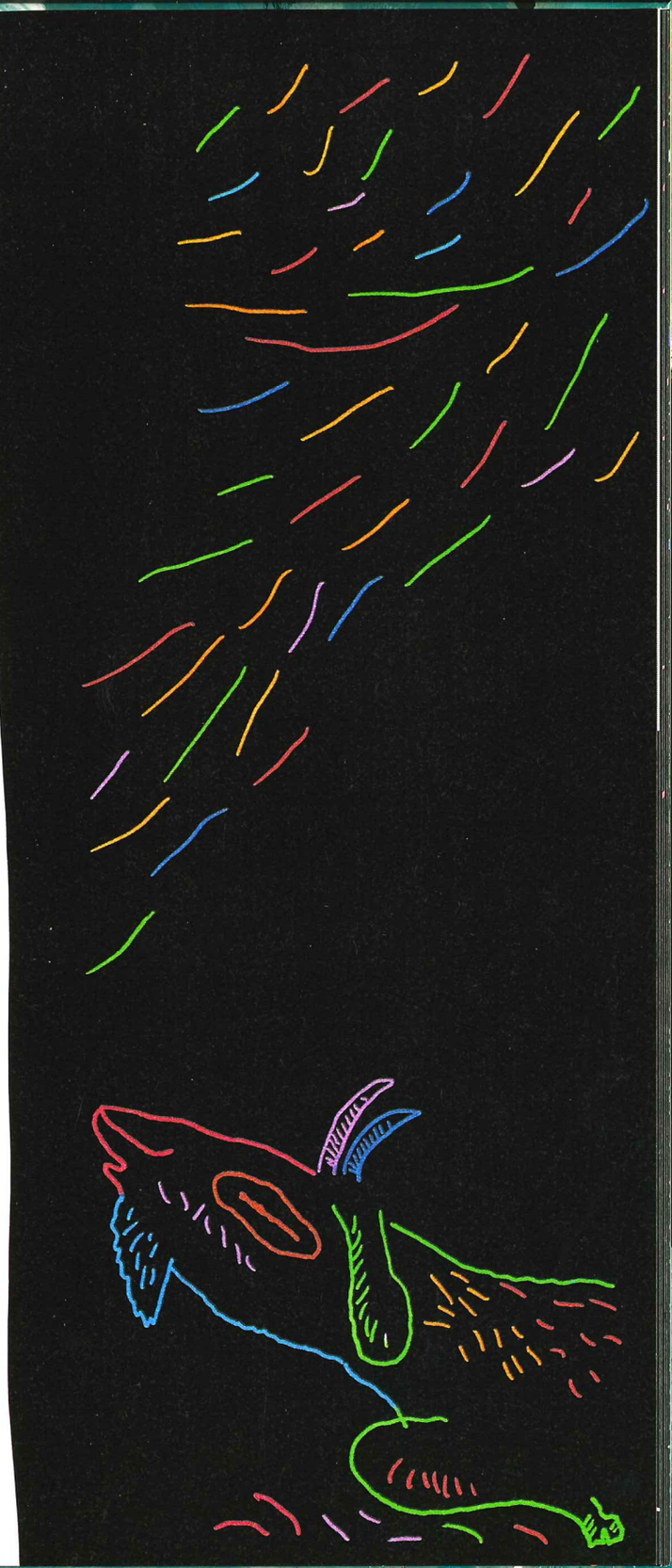
ヤギの ほうは、あいてが オオカミだとは、まだ きが つかない。
「そりゃあ、おいらだって、あらしの よるに、こんな こやに
ひとりぼっちじゃ、こころぼそく なっちまいやすよ。」
どうやら オオカミの ほうも、あいてが ヤギだとは きづいていない。

「よっこらしょ。
うっ……、いててて。」
「どうしました。」
「いやあ、ここに　くるとき、
ちょっと、あしをね。」
「そりゃあ　たいへん。ほら、
こっちに　あしを
のばしてくださいよ。」
「お、それじゃ　ちょっくら
しつれいして、よいしょっと。」

オオカミが　のばした
あしが、チョンと　ヤギの
こしに　あたる。
ヤギは、
『あら？　ひづめに　しては、
ずいぶん　やわらかいな。』
と　おもったが、きっと
いま　あたったのは
ひざなんだと
おもいこむ。

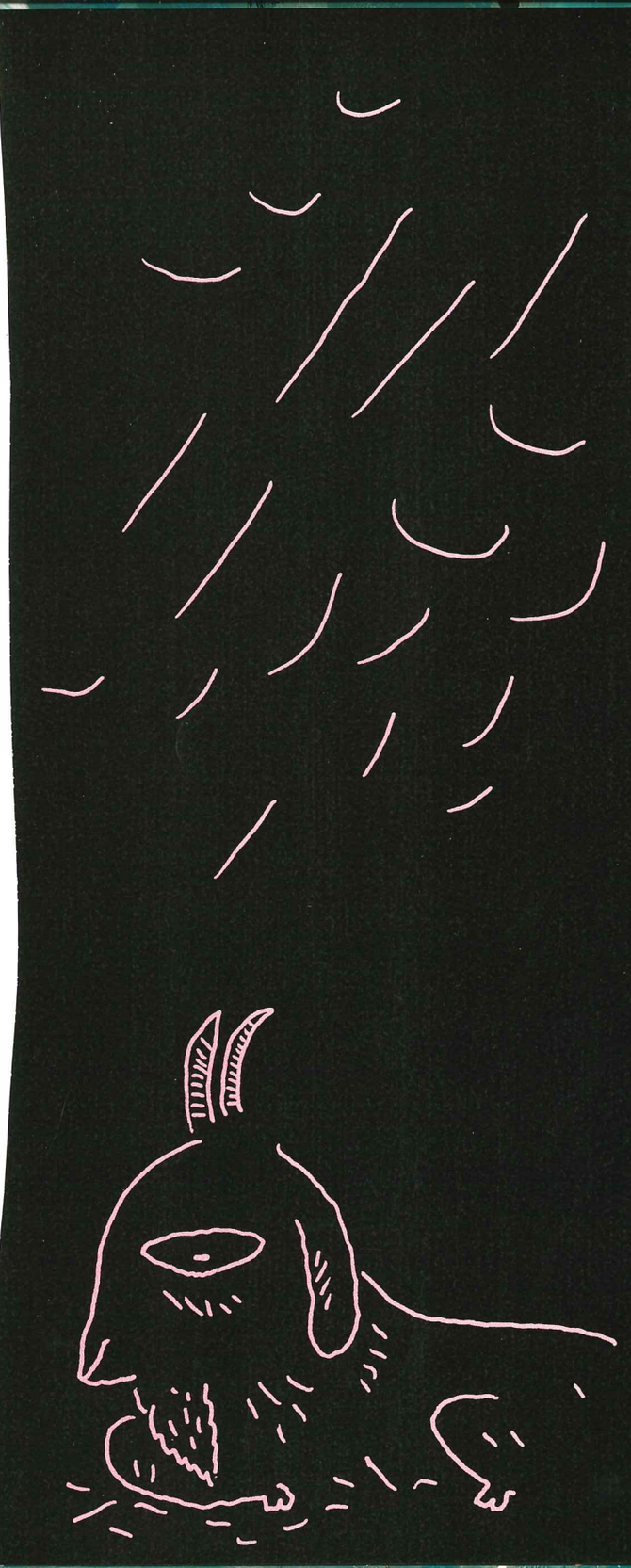
「エヘヘ、いま　わかるのは、おたがい　こえだけって　わけっすよね。」
「ハハハ、ほんとうですね。」

「は、は、は、はっくちゅん！」
とつぜん、オオカミが　おおきな　くしゃみを　した。
「だいじょうぶですか？」
「うっ……、どうやら　はなかぜを　ひいちまったらしい。」
「わたしもですよ。おかげで　ぜんぜん、においが　わからないんです。」

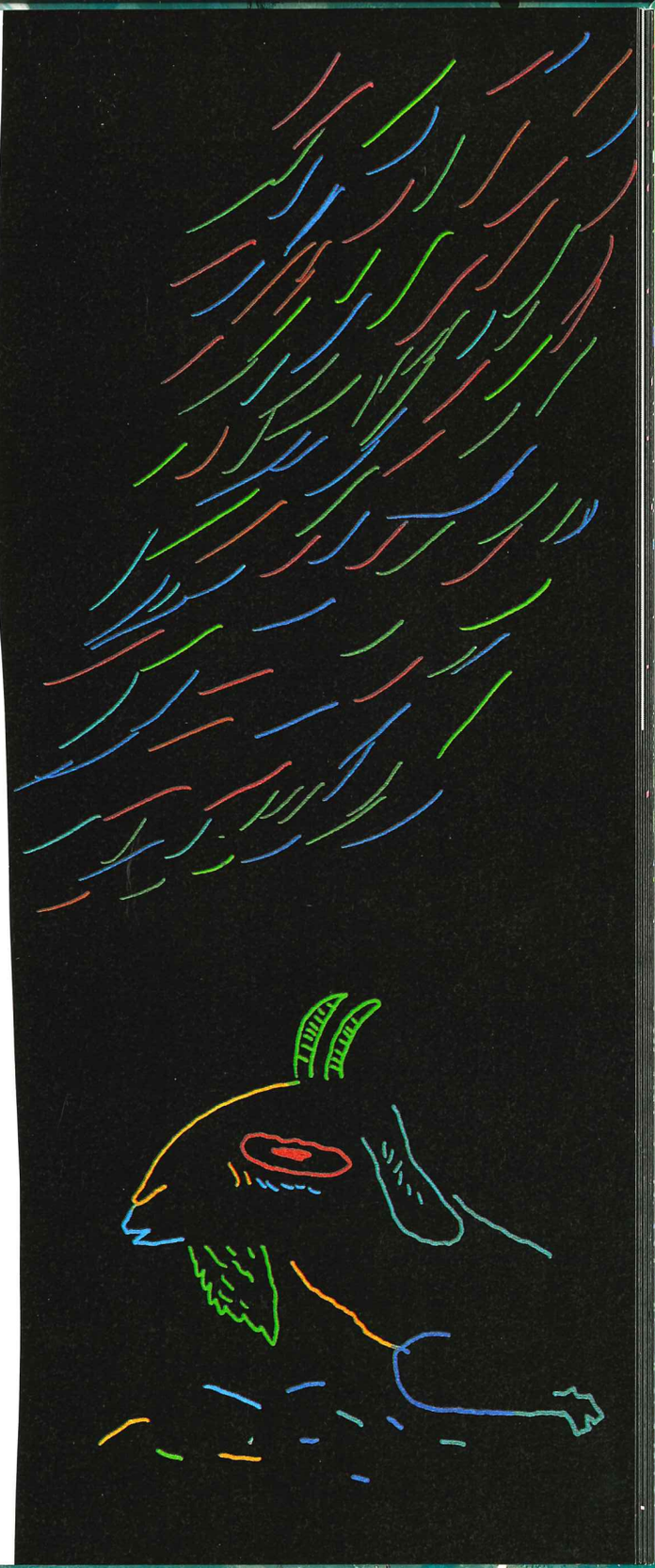


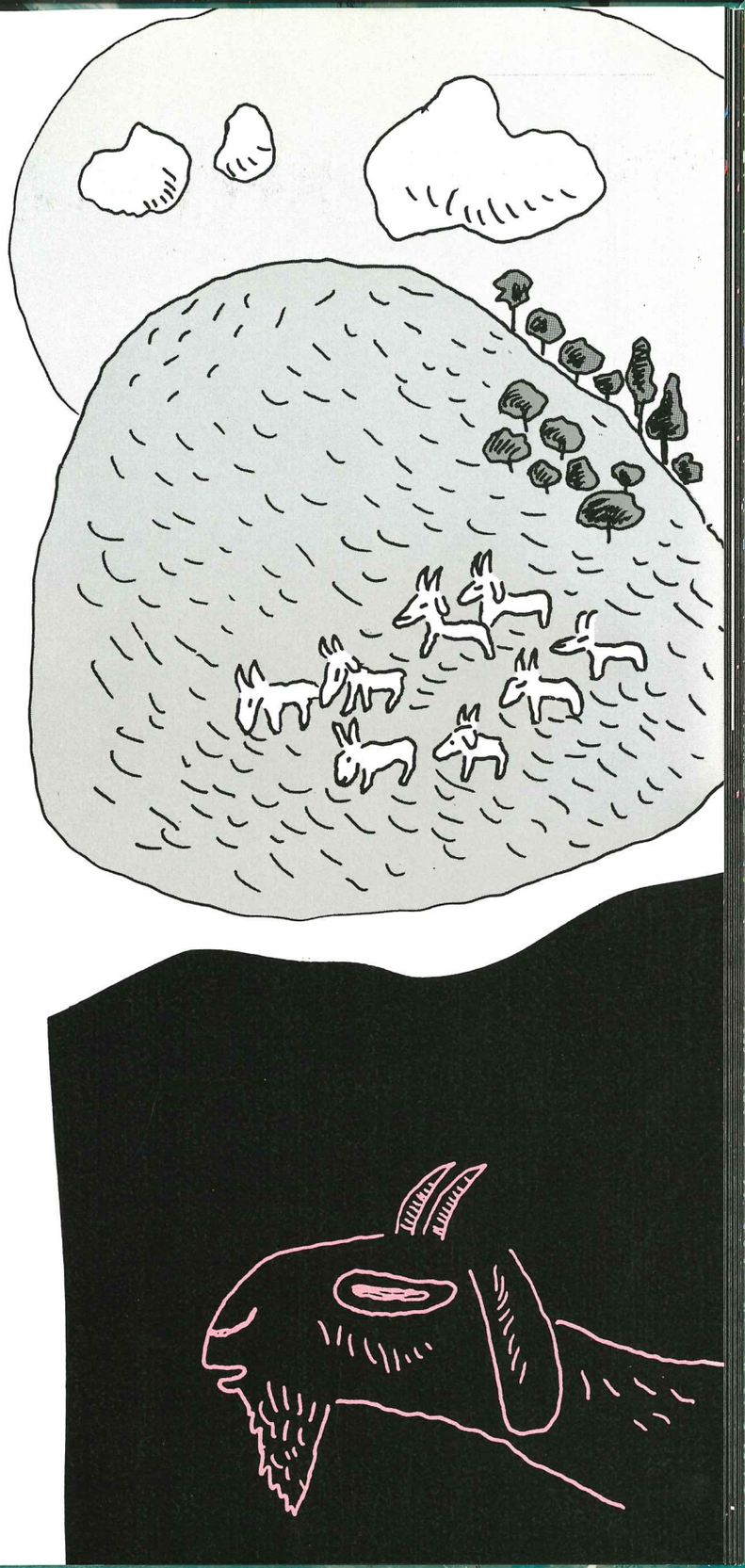
オオカミの　わらいごえを　きいて、ヤギは　おもわず、
『オオカミみたいな　すごみの　ある　ひくい　おこえで。』
と　いいかけたが、しつれいだと　おもい、くちを　とじる。

オオカミの　ほうも、
『まるで　ヤギみたいに　かんだかい　わらいかたでやんすね。』
って　いおうと　したが、そんなことを　いったら　あいてが
きを　わるくすると　おもい、やめることに　する。



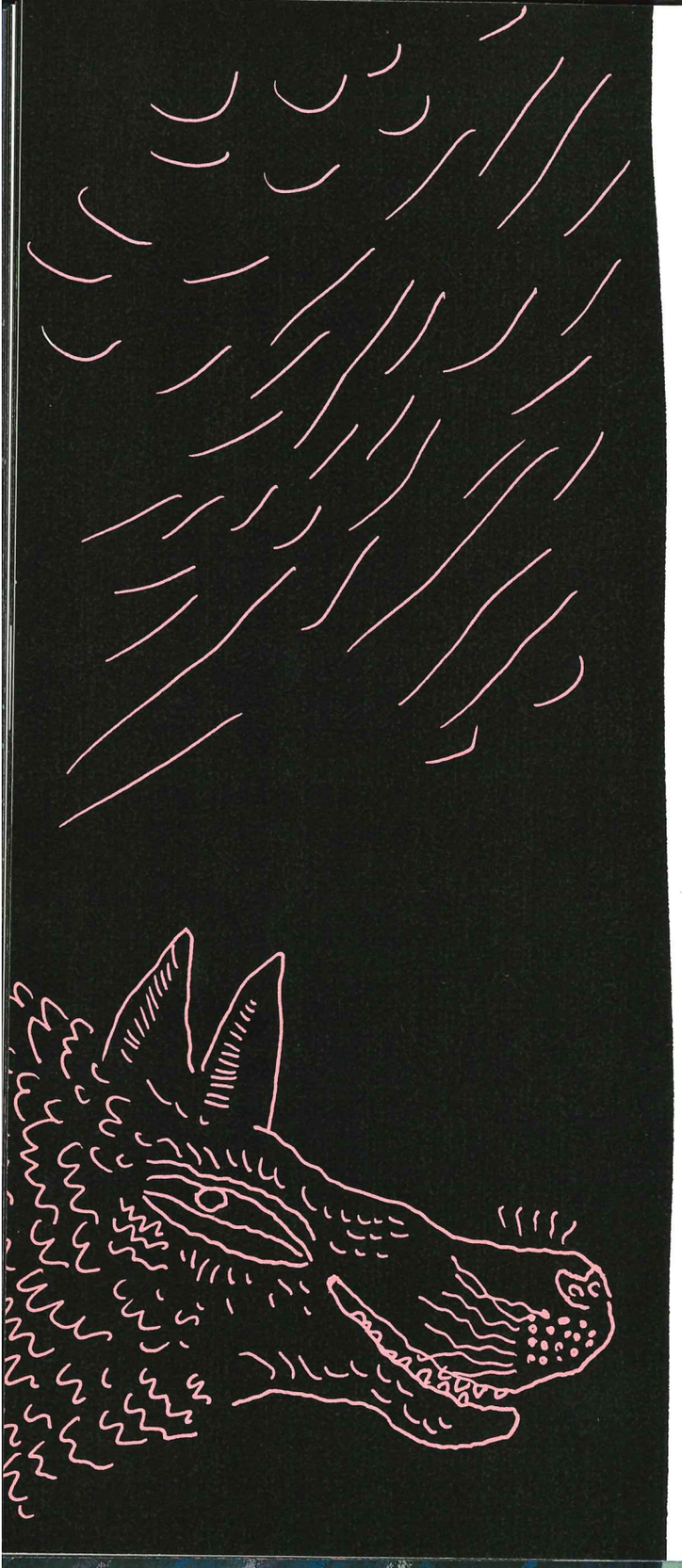
かぜの　うなりごえと、こやに　たたきつける　あめの　つぶが、
かわりばんこに　ひびきわたる。
「どちらに　おすまいで。」
「へえ、おいらは、バクバクだにの　ほうでやす。」
「ええ!?　バクバクだにですって？　あっちの　ほうは　あぶなくないですか？」
「へえ～、そうでやんすか？　ま、ちょっと　けわしいけれど、すみごこちは　いいでやんすよ。」
バクバクだにとは、オオカミたちの　いる　たにである。





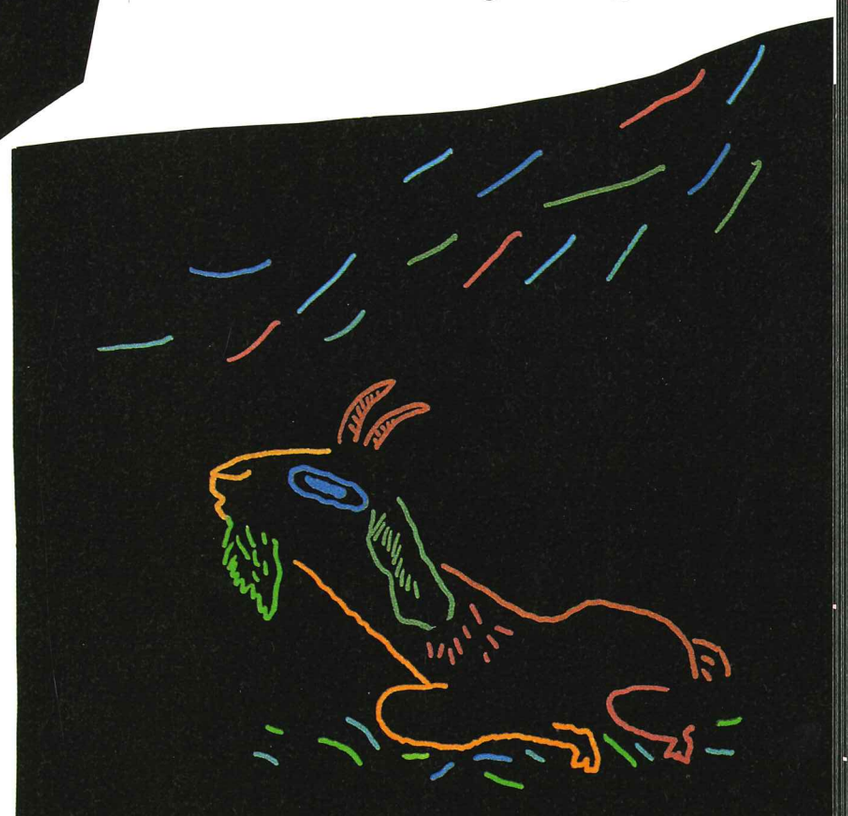
「ふーん、どきょうが　あるんですね。わたしは　サワサワやまの　ほうですよ。」
「おーっ、そいつは　うらやましい。そっちの　ほうは、うまい
くいものが、たくさん　あるじゃないですか。」
うまい　くいものとは、ヤギの　ことである。

「まあ、ふつうですよ、ハハハ。」
そのとき、二ひきの　おなかが　どうじに　なる。
ぐう〜。
「そういえば、はらが　へりやしたね。」
「ほんとに。わたしも　ぺこぺこですよ。」



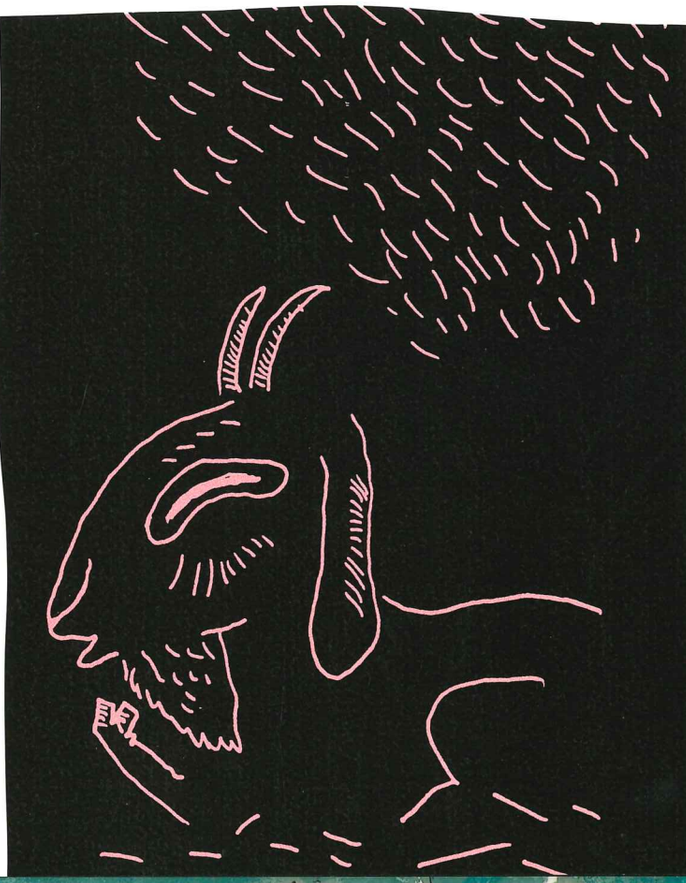
「ああ、こんなとき、うまい　えさが
ちかくに　あったらなあ。」
「わかります、わかります。わたしも
いま、おんなじことを
おもってたんです。」

「そういえば、おいら、よく
サワサワやまの　ふもとに　ある
フカフカだにの　あたりに、
えさを　たべに　いきやすよ。」
「おや、ぐうぜん。わたしもですよ。」



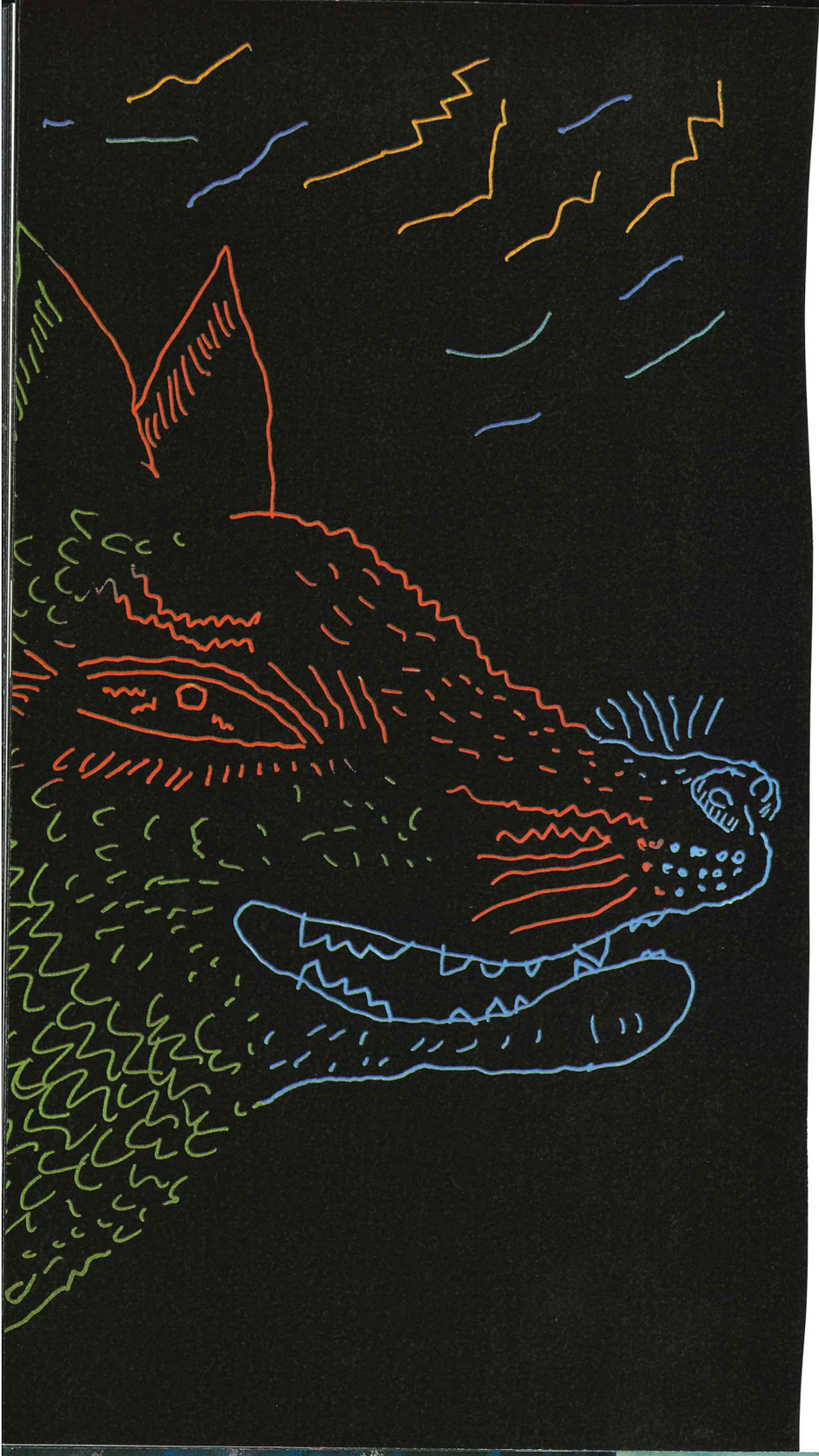
「あそこの　えさは、とくべつ
うまいんすよねえ。」
「ええ、においも　いいし。」

「やわらかいのに　はごたえも
いいっすから。」
「まいにち　たべても
あきないくらいですよね。」



「ああ、おもいだしただけで
たまらねえ。よだれが　でそう。」
「ああ、おもいっきり
たべたい。」

「ほんと、いちど　くったら、
やみつきに　なっちまいやす。」
「うーん、その　いいかた、
ぴったりですよね。」



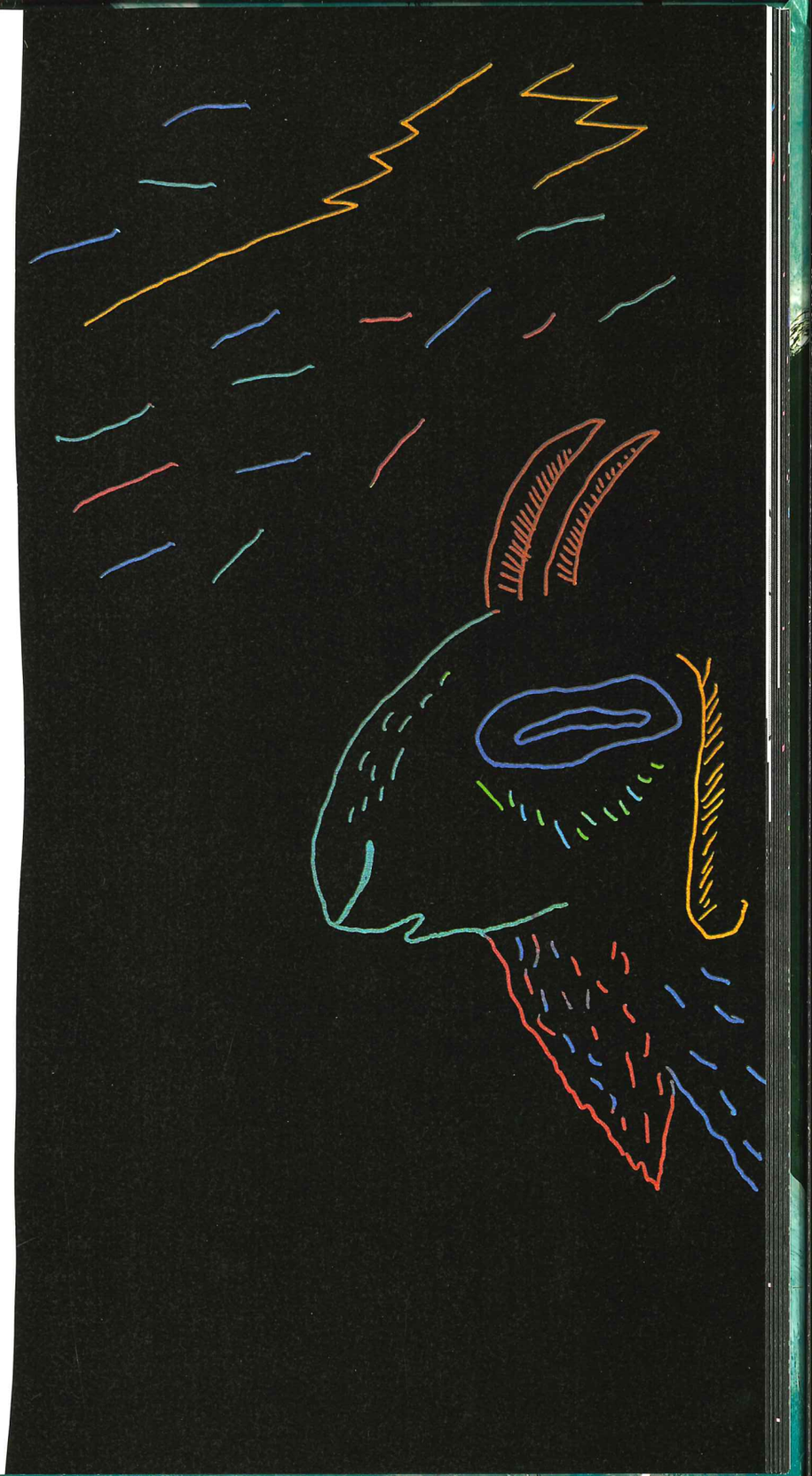
そこで　二ひきは　どうじに、

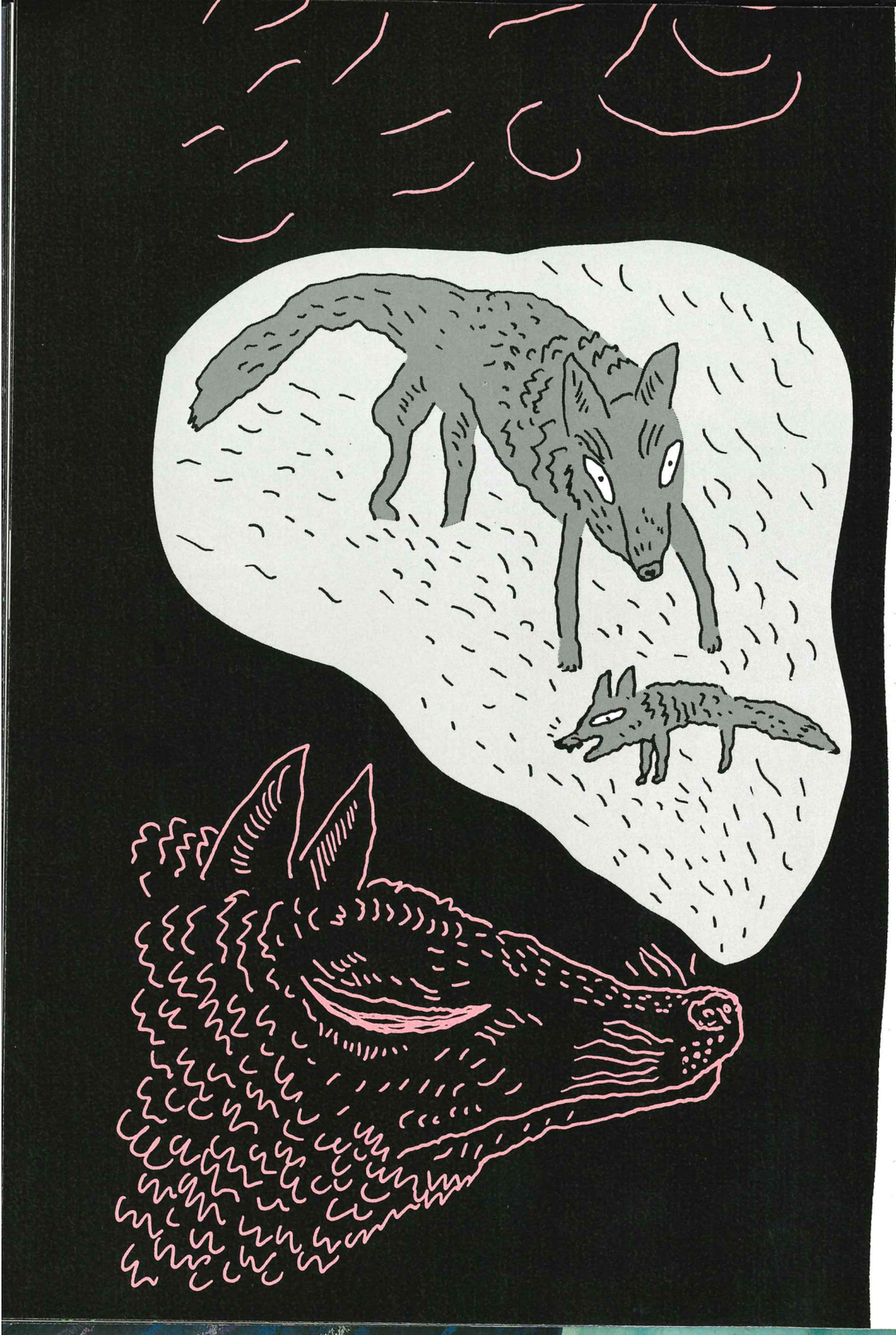
「あの　おいしい……。」

『くさ』と　ヤギが　いい、『にく』と　オオカミが　いった。

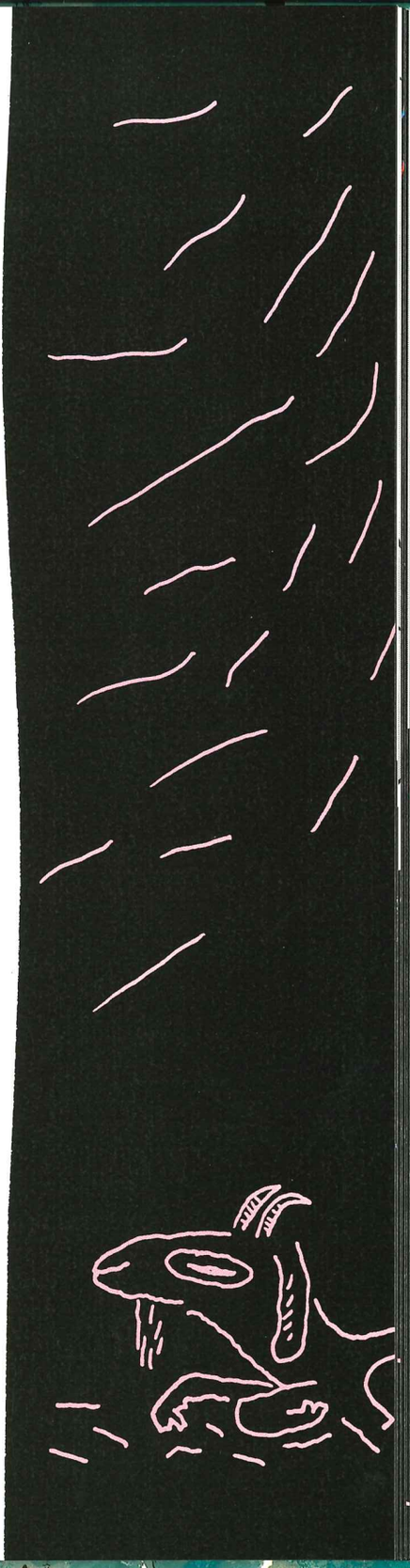
けれども、ガラガラと　とおくで　なった　かみなりに、

ちょうど　その　こえは　かきけされた。



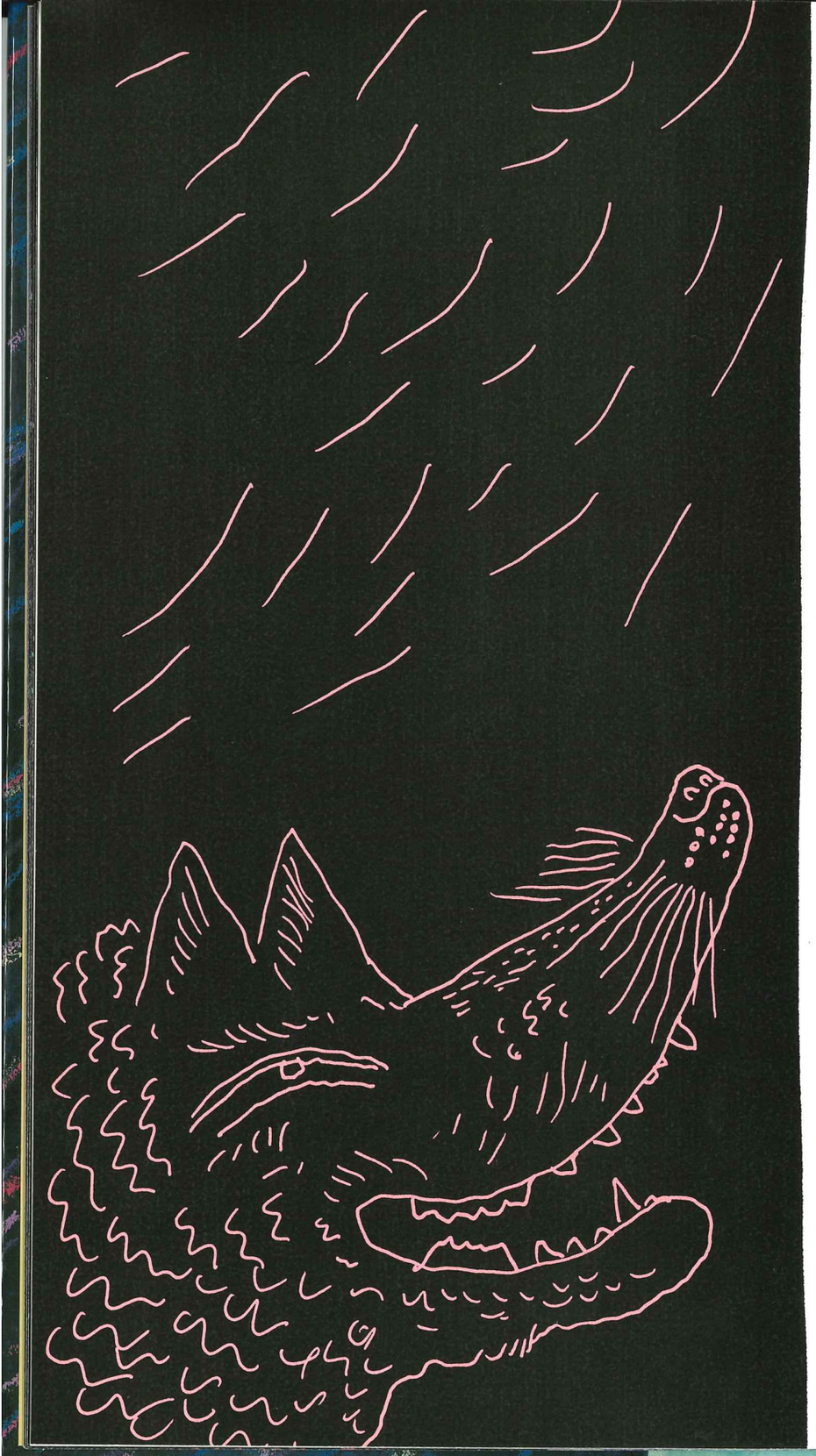


「そういえば、おいら、こどもの　ころは　やせっぽちでね。
いまじゃあ　とくべつ　おおぐらいだけど、あの　ころは　よく
おふくろから　いわれたもんすよ。『もっと　くえ、もっと　くえ。
ってね。」



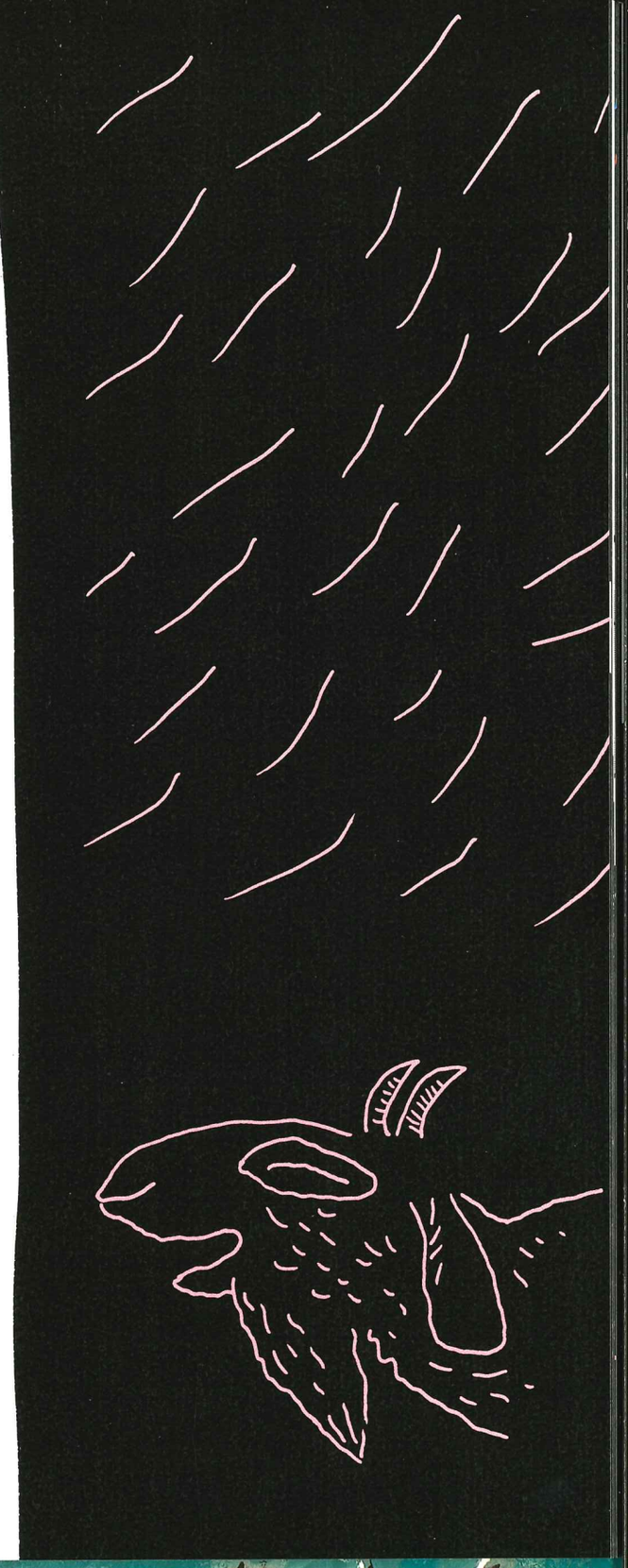
「あら、わたしもですよ。
『そんなんじゃ、いざと　いうときに、
はやく　はしれないでしょ。はやく
はしれないと、いきのこれないわ。』って、
しょくじの　たびに　ははおやにね。」

「そうそう、おいらの　うちも、
おなじ　いいかたっすよ。
『はやく　はやく　はしれないと
いきのこれないわよ。』って。」

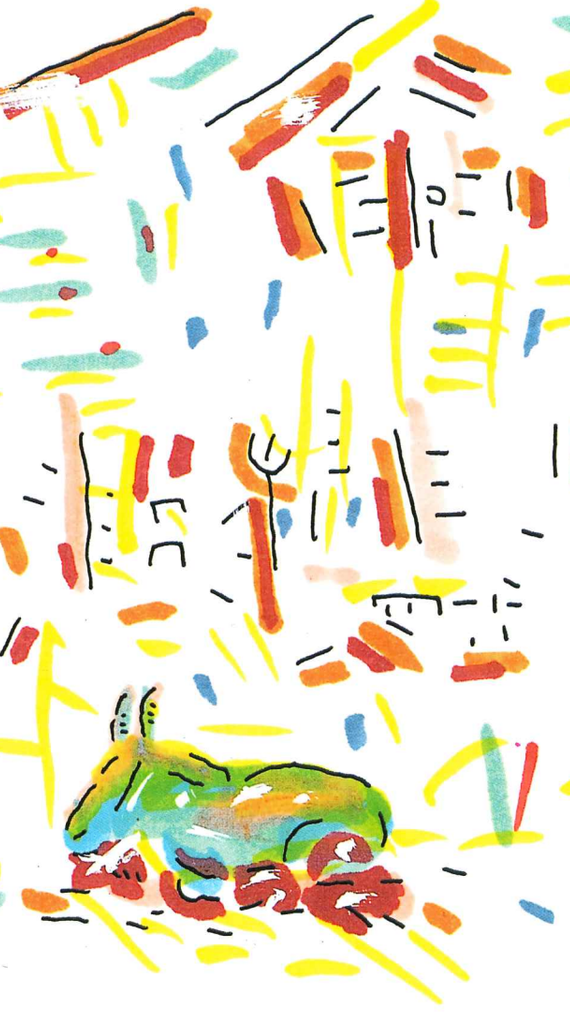


「ハハハ、わたしたち、ほんとに　よく　にてますねえ。」

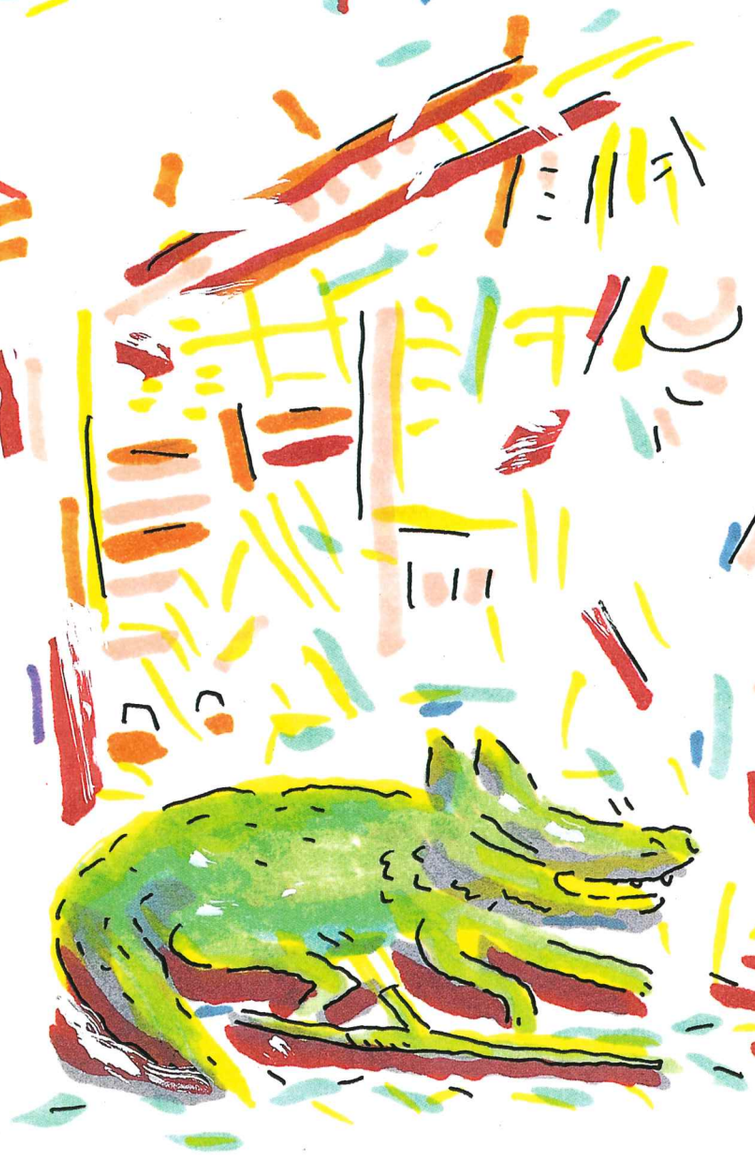
「へへへ、ほんと、まっくらで　おたがいの　かおも
みえないっすけど、じつは　かおまで　にてたりして。」

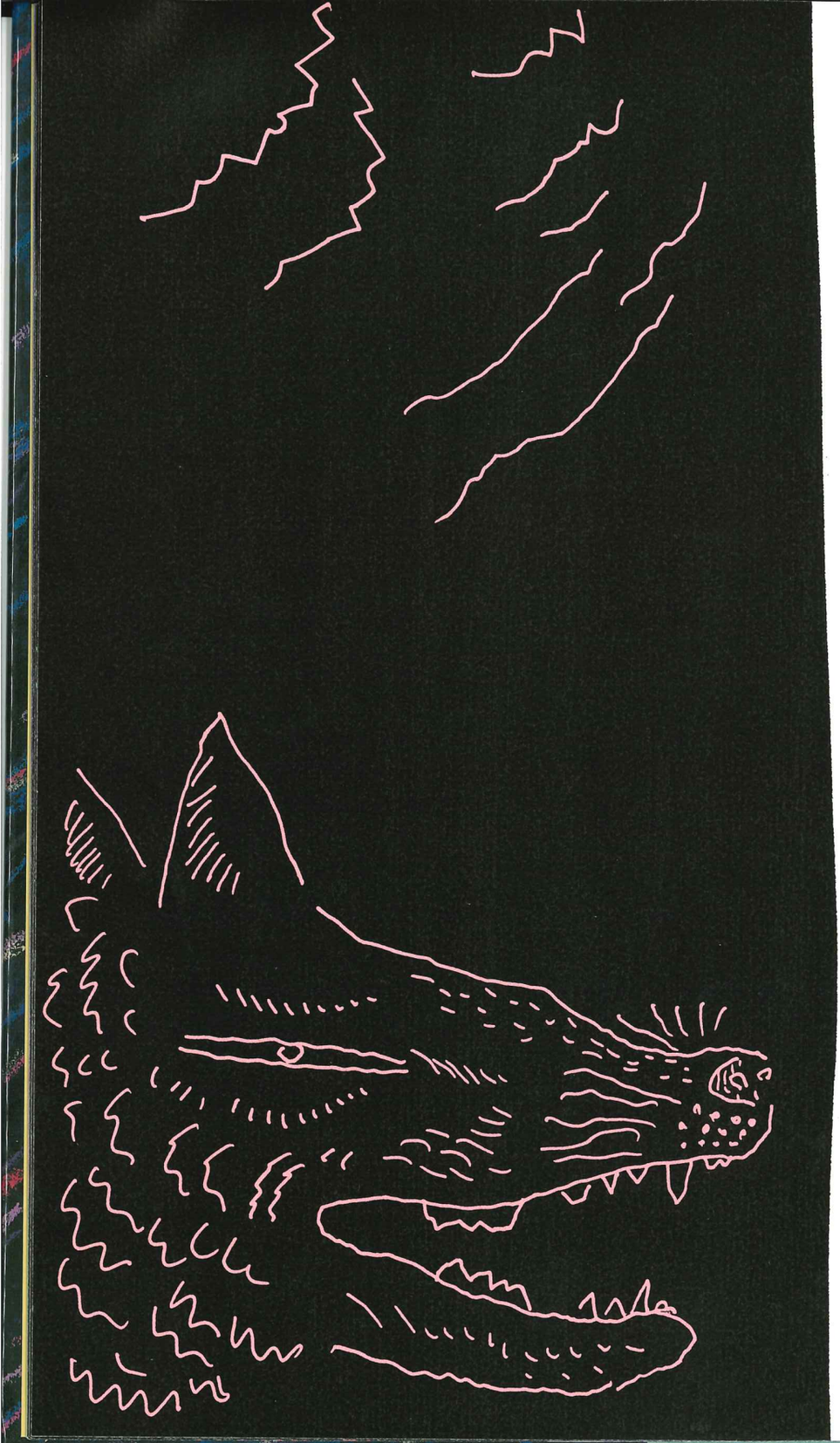


ピカッ



そのとき、すぐ　ちかくで　いなずまが　ひかり、
こやの　なかが　ひるまのように　うつしだされた。



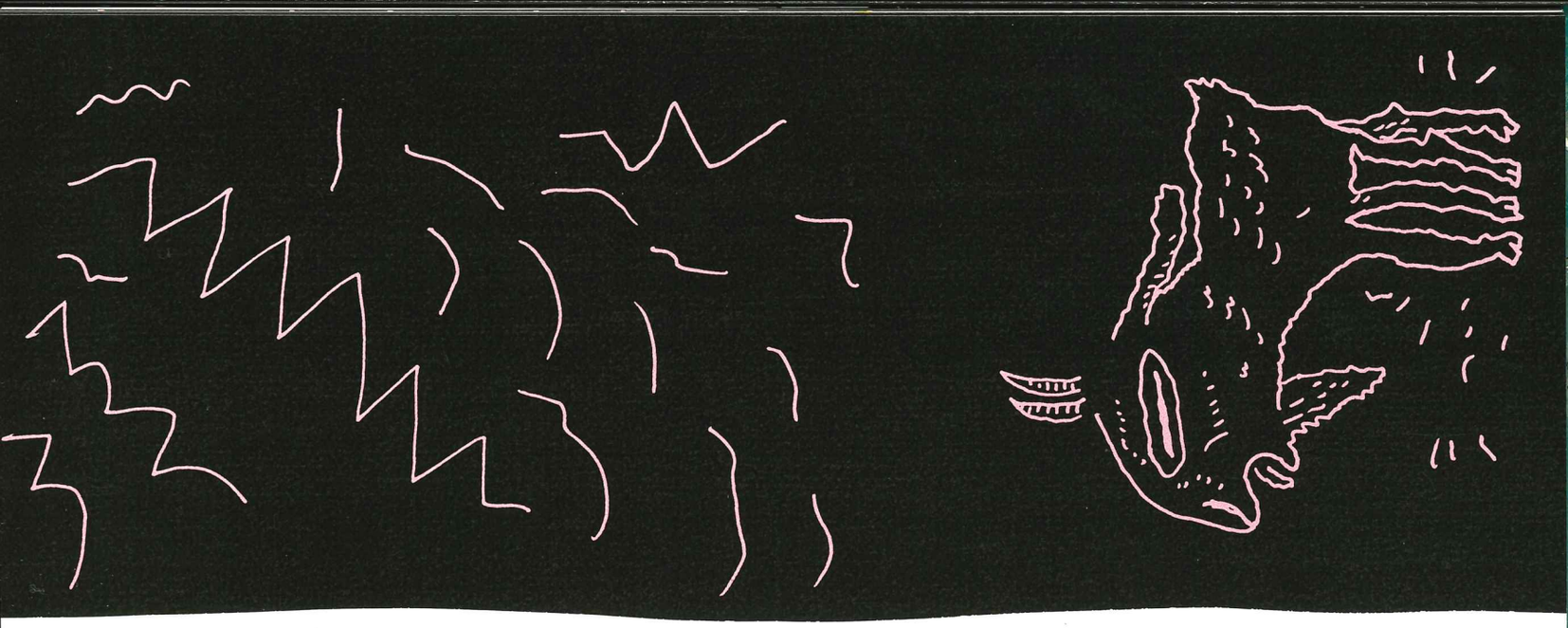


「あっ、わたし　いま、うっかり　したたを　むいてましたけど、
いま、わたしの　かお、みえたでしょ。にてましたあ？」

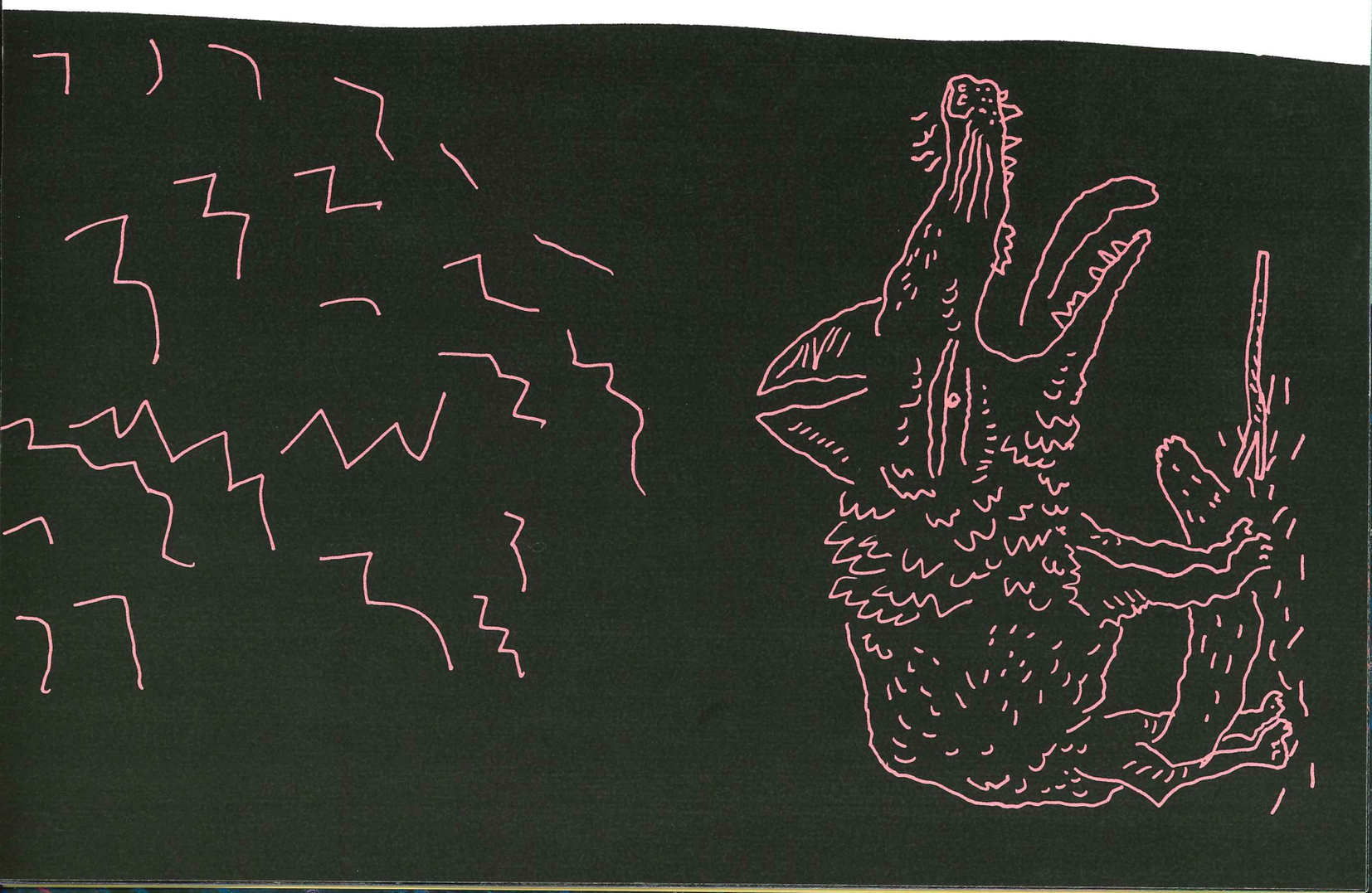
「……それが、まぶしくて、おいら　おもわず　めェ　つぶっちまって。」
「ま、もうすぐ　よが　あければ　わかることですよ。」

ガラガラガラ！

とつぜん、おおきな
かみなりの　おとが、
こやじゅうを　ふるわせる。
「ひゃあ！」
おもわず　二ひきは、しっかりと
からだを　よせあってしまう。



「あっ、しつれい。どうも わたし、この おとに よわくて。」
「ふうー、おいらもなんですよう。ハアー、びっくりしやしたね。」
「なんか、わたしたちって、にてると おもいません？」
「いよっ、じつは おいらも いま、それが あうなあ〜って。」
「そうだ。どうです、こんど てんきの いいひに おしょくじでも。」

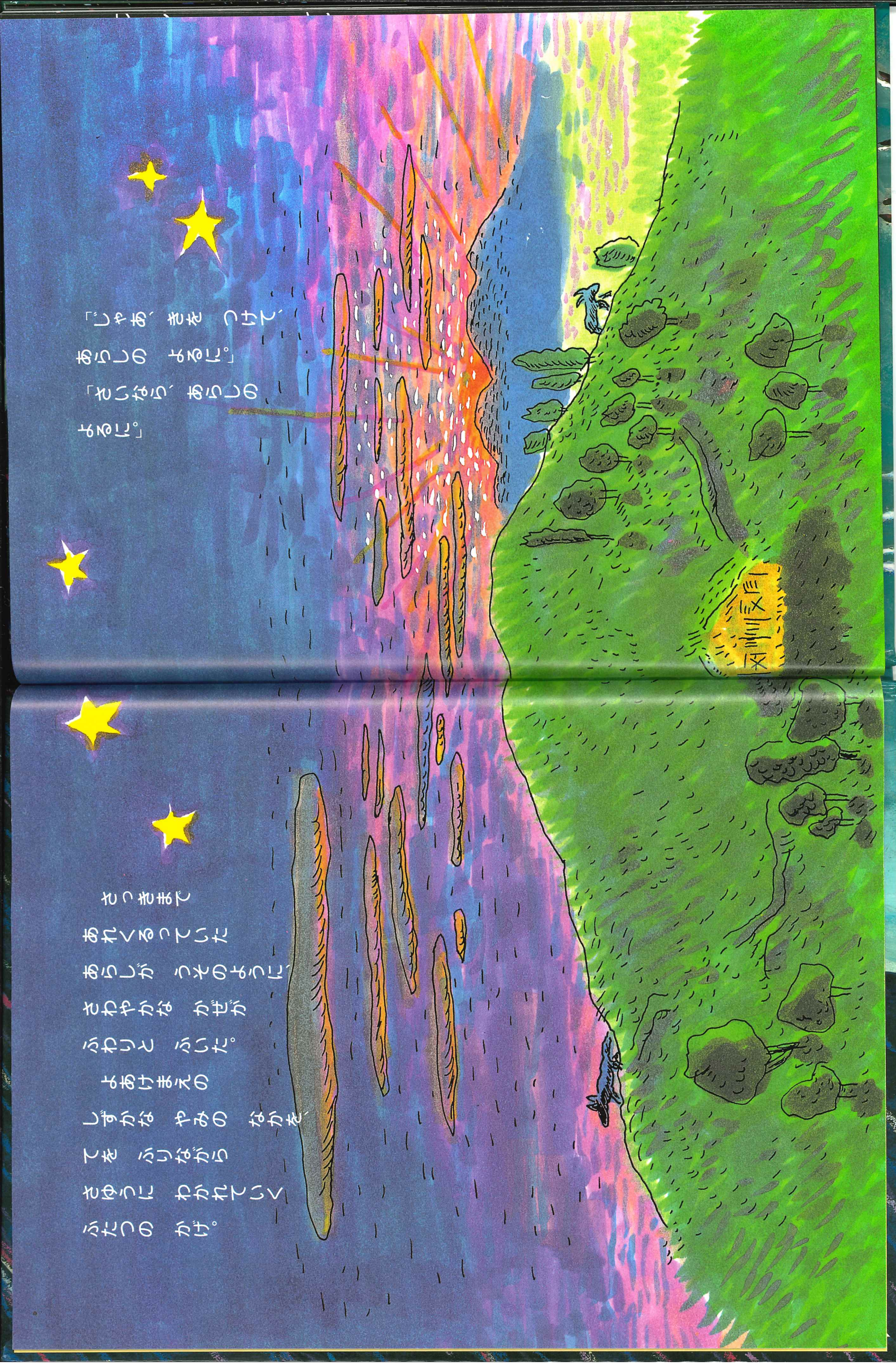


「いいっすねえ。ひどい　あらしで　さいあくの　よるだと
おもってたんすけど、いい　ともだちに　であって、こいつは
さいこうの　よるかも　しんねえす。」

「おや、もう　すっかり　あらしも　やみましたねえ。」
「おっ、ほんとだ。」
くもの　きれまに　ほんの　わずかだが、ほしすら　でてきた。

「それじゃ　とりあえず、あしたの　おひるなんて　どうです？」
「いいっすよ。あらしの　あとは　とくに　いい　てんきって　いいやすからね。」
「あう　ばしょは、どうしますす？」
「うーん。じゃ、この　こやの　まえでは？」
「きまり。でも、おたがいの　かおが　わからなかったりして。」

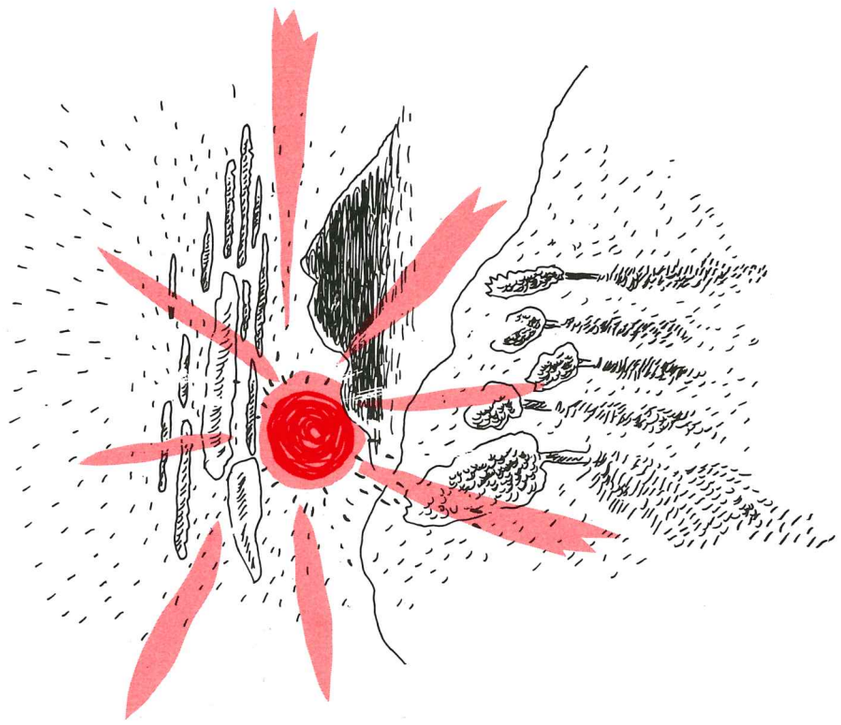
「じゃ、ねんのため、おいらが『あらしの　よるに　ともだちに　なった　ものです。』って　いいやすよ。」
「ハハハ、『あらしの　よるに』だけで　わかりますよ。」
「じゃあ、おいらたちの　あいことばは、『あらしの　よるに』ってことっすね。」



「ぴぬゃ
　ぴぴぬ　ぴぴぬ　ぴぴぬ
「ぴぬゃ　ぴぴぬ　ぴぴぬ
　、へせん　きぬ　、ぬさに」

さっきまで
あれくるっていた
あらしが　うそのように
さわやかな　かぜが
ふわりと　ふいた。
　よあけまえの
しずかな　やみの　なかを
てを　ふりながら
そゆうに　わかれていく
ふたつの　かげ。

あくるひ、この　おかの　したで、なにが　おこるのか。
このはの　しずくを　きらめかせ、ちょっぴりと　かおを
だしてきた　あさひにも、そんなこと、わかる　はずも　ない。



作者◎きむらゆういち

1948年，東京都生まれ。幼児番組のアイデアブレーンなどを経て絵本・童話作家に。
「あらしのよるに」で講談社出版文化賞絵本賞，産経児童出版文化賞ＪＲ賞受賞。
同作品の劇作で，斎田喬戯曲賞受賞。
他の作品に「にんげんごっこ」「きずだらけのリンゴ」「風切る翼」（以上講談社）
「オオカミのごちそう」（偕成社）「あめあがり」（小峰書店）など。
ホームページアドレス　http://www1.odn.ne.jp/kimura-yuuichi

画家◎あべ弘士

1948年，北海道生まれ。旭川市旭山動物園の飼育係から，絵本作家に。
「あらしのよるに」で講談社出版文化賞絵本賞，産経児童出版文化賞ＪＲ賞受賞。
「ゴリラにっき」（小学館）で小学館児童出版文化賞受賞。
『ハリネズミのプルプル』シリーズ（文溪堂）で赤い鳥さし絵賞受賞。
「どうぶつゆうびん」で産経児童出版文化賞ニッポン放送賞受賞。
他の作品に「わにのスワニー」，「えほんねぶた」（以上講談社）など。

大型版 あらしのよるにシリーズ①

あらしのよるに

2000年６月30日　第１刷発行　　2008年８月４日　第24刷発行

作／きむらゆういち　絵／あべ弘士
装丁／坂川栄治(坂川事務所)
発行者／野間佐和子
発行所／株式会社講談社
〒112-8001　東京都文京区音羽2-12-21
電話(出版部)03・5395・3535
(販売部)03・5395・3625
(業務部)03・5395・3615
印刷所／図書印刷株式会社
製本所／大村製本株式会社
N.D.C.913　48p　24cm

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ，小社業務部あてにお送りください。
送料小社負担にておとりかえいたします。
なお，この本についてのお問い合わせは児童図書第一出版部あてにお願いいたします。
定価はカバーに表示してあります。
Ⓡ〈日本複写権センター委託出版物〉
本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き，禁じられています。
©Yûichi Kimura/Hiroshi Abe 2000 Printed in Japan

ISBN4-06-210293-5